



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

平成25年度がスタートしました。4月1日付で学部長職を再任されたので、初心に戻って歯学部のさらなる発展のために全力を尽す所存です。

平成25年度昭和大学入学式は、去る4月11日(木)午前10時より、パシフィコ横浜の国立大ホールに於いて厳粛に執り行



われしました。今年度の新生は、医・歯・薬・保健医療学部合わせて、624名(編入生を含む)でした。開式のあと、昭和大学管弦楽団による演奏に引き続き、役員が登壇しました。式次第に従い、片桐学長から、社会に貢献する優れた医療人になるために、知識や技能の習得だけでなく、高い倫理感と優れた人間性を身に付けて頑張るようにと告示がありました。続いて小口理事長から、本学の歴史と建学の精神について紹介があり、昭和大学宣言の最初の「医療人として人類への貢献に自らの人生を捧げる」ことの重みをかみしめて欲しいと祝辞がありました。新生代表の歯学部下山 颯君のリードで、新生ならびに昭和大学関係者全員で、昭和大学宣言を唱和しました。役員が降壇し、新生歓迎行事実行委員(歯学部4年大島 遼君)の歓迎の挨拶に引き続き、恒例になった応援指導部による新生歓迎演武があり、最後にグリークラブのリードで校歌を斉唱し閉会しました。

今年の歯学部入試では、推薦、選抜Ⅰ・Ⅱ、センターⅠ・Ⅱ、編入Ⅰ・Ⅱの各試験ともに昨年度よりも大幅に志願者が増加しました。その結果、例年にも増して資質の高い入学者を受け入れることができました。新生が、富士吉田キャンパスで多くの経験を積んで、大いに成長することを期待しています。

本学部の教育改革は継続中ですが、本年度は本学の最大の特徴であるチーム医療教育のさらなる充実と、コンピテンシーに基づいた臨床能力の質評価について、現状のiOSCAをさらに発展させたいと考えています。幸いなことに、昨年度文部科学省の「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」プロジェクトがスタートし、連携大学である北海道医療大学および岩手医科大学、さら地元歯科医

師会と協同で「ITを活用した教育センター」を設置し、新しい教材の開発と整備を進めています。今年度はそれを3、4年生の「チーム医療と口腔医学」ユニットで使用します。また、地域医療実習やiOSCAの外部評価についても、地元歯科医師会との連携を進める予定です。

今年度も本歯学部における教育のさらなる充実に、関係者のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 大学院入学式が挙行されました

大学院歯学研究科運営委員長 佐藤 裕二

平成25年度大学院入学式が4月6日に上條講堂で医歯薬保の4研究科合同で開催されました。歯学研究科は一般選抜22名、社会人特別選抜8名の合計30名でした(医39名、薬4名、保23名)。今回の入試の語学試験の結果をみても、優秀な方ばかりです。多くの大学院生を受け入れることで、教員の負担も大きいですが、やりがいも増します。将来の歯学、昭和大学、地域医療を担う人材に育ってくれるものと期待しています。今回から、校歌斉唱の際に2番3番を省略せずに、全部を斉唱しました。愛校心を育む点においても、とても良いことだと思います。また、学生時代に大学院の単位を取得する「マルチドクター制度」の学生もあらたに3名が増えました。学生時代から研究に接することにより、さらに高いゴールを目指してくれることでしょう。



## 歯科病院長に就任しました

榎 宏太郎

4月1日より、歯科病院長を拝命致しました。不慣れな事もあり、ご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、何卒宜しく御支援、御鞭撻の程をお願い申し上げます。



まずは、1)現在の診療状況と経営状態の把握、2)各科における患者さんからの要求の調査、3)個々の職員の希望の聴取、などを早急に進めたいと思います。

また、昭和大学歯科病院の存在意義について、その第一は、患者にとって考える最善の歯科医療を施すこと。第二に、学生を守り育てること。そして、第三には、昭和大学の一員としての責任を果たすこと。これら三点が重要であると考えております。

つまり、自分たちの行っている医療が、ほんとうに最善であるのかどうか、困難であった症例の反省はどのように役立てられているのか、社会の認識も含めて、もう一度検証しましょう。また、学生にどのように生き抜く術を教えればいいのか、システム論的な教育に埋没せず、診療の厳しさも教え、研究への興味へとつなげましょう。そして、大学や他の病院に経営的な問題で迷惑をかける事はできません。より一層、診療のレベルアップを図りましょう。

他にも、医療安全や法の遵守など、この場で宣言しなければならない事は数多くありますが、新任院長としては、少なくとも上記の三点を、各局面における判断の基準にしたいと思っております。

さらに、病院運営の手段についても、問題解決型と仮説検証型の両者を織り交ぜながら効率的に進められなければなりません。しかし、何よりも、「問題解決以前の問題」と言われる、人の心の深層と関連する事項、つまりは、生きがい、意欲、現実と希望との乖離、などを直接調査した上で、必要とされる改善案を検討し、共通の目的意識を構築したいと思っております。おそらく、その過程こそが、病院の健全な経営や良質な診療の実践には不可欠なものではないでしょうか。無事、歯科病院としてのミッションを達成できますよう、心より皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

中村史朗講師(口腔生理学)、矢澤 格講師(口腔生理学)、田中準一助教(口腔病理学)、相澤 怜助教(病院長直属)

## 口腔病態診断学講座歯科放射線医学部門教授に就任しました

佐野 司

平成25年4月1日付けをもちまして、歯学部教授会のご推挙・理事会のご承認により歯科放射線分野の教授に就任いたしました。母校の教授に着任しましたことは、身に余る光栄でありますとともに、その責務の重大さを痛感しております。



教育では新しい知識および歯科医療技術を習得することが重要視される事項であります。その前に最も重要な人と人の触れ合いを再認識すべきであると考えております。一方、画像検査は診断に関わるひとつの補助的な診察・検査にすぎず、患者さんの訴えや症状を把握していなければ、検査自体無意味となる可能性を認識することが重要と考えます。以上の点をふまえ、学部学生、臨床研修歯科医の立場に応じたカリキュラムを構築する所存です。また、大学院生には研究に対する興味と情熱を持たせ、国際的な場での発表を目指すように導き、それを達成するための努力と苦悩、問題を追及する喜びを経験させたいと考えております。

研究で常に心がけていることは、研究の結果を臨床へフィードバックすること、それらを可能な限り世界に発信することです。1. 従来の画像検査法では検出ができなかった、もしくは十分でなかった組織や病態の検出。2. 臨床症状を反映する画像所見の抽出に従事する所存です。また、摂食・嚥下障害に代表される機能障害の評価もこれまでの研究を礎に行っていきたいと考えております。

診療では、歯科放射線科医はある程度の診察・検査を行える能力を備える必要があると考えます。また、画像検査に関するアドバイスを求められたとき、極力各診療科へうかがって患者さんを担当医と一緒に拝見することを心がけたいと思っております。患者さんの利益に貢献する画像検査体系の新たな構築も必要と考えます。それにより二次的に診療収益が伸びることも重要と考えます。

東京歯科大学に9年強、在籍させていただいた際の貴重な経験を活かして、診療科、教室の体系を築いてゆく所存ですので、皆様方の御指導、お力添えを頂戴したいと存じます。

## スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門教授(員外)に就任しました

口腔衛生学部門 弘中 祥司

平成25年度4月1日付けで、スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門教授(員外)に就任しました弘中祥司です。どうぞよろしくお願い致します。私自身は北海道大学歯学部(平成6年卒)の出身で、平成14年より昭和大学の向井美恵先生の教室で働かせて頂いておりました。当部門は、これまで金子芳洋先生、向井美恵先生と全国的にも有名な教授を輩出しており、また口腔リハビリテーション科の高橋浩二教授を含めて本学は全国的にも摂食・嚥下リハビリテーションの草分け的な存在であります。これまで食べる機能の発達や障がい、食育・老化等を研究・実践してきましたが、これに加えて超高齢社会での、口腔機能変化とリハビリテーションについても研究を行い、地域口腔保健に役立てたいと考えております。



また当部門では、昭和大学の特徴である、8つの附属病院での入院患者さんへの口腔の健康をサポートする昭和大学口腔ケアセンターを行っており、向井先生の後を引き継いで、センター長にも就任させて頂いております。総数4,000余ある本学の入院ベッドには、口腔の健康にお困りの患者さんが多くいらっしゃいます。口腔ケアを通じて、入院から退院まで、一人でも多く口腔の健康をより良く維持したいと思っております。各附属病院歯科室の先生と一緒に、近隣の歯科医師会の先生方と協力しながら、病院から地域・在宅への橋渡しをしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、富士吉田教育部の兼任教授として、4部屋16名の部屋コンパを持たせて頂いております。4月11日に入学式、12日に入寮式が行われ、期待に胸を膨らませる新入生が寮生活を開始いたしました。口腔衛生学部門は1~6年生まで行う社会と歯科医療コースを担当するため、寮生活をよく理解し、昭和大学気質を理解するチャンスだと思っております。常に前向きに頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 白衣授与式 進級式が行われました

教育委員長 井上 美津子

平成25年度昭和大学歯学部白衣授与式は3月29日(金)の午前10時45分より上條講堂で行われました。新5年生の臨床実習はすでに3月25日から始まっており、1週間の予備実習の最終日が白衣授与

式となりました。臨床実習責任者の長谷川教授の司会のもと、教育委員長の開式の辞、校歌斉唱、宮崎歯学部長からの告辞と式は進み、いよいよ白衣授与となり、8名の臨床系教授・部門長から学生に順次白衣の授与が行われました。昭和のワッペンをつけた新しい白衣を身につけることで、学生は臨床実習への心構えを新たにしたものと思われます。続いて学長、歯科病院長、看護師長からの祝辞と臨床研修を修了した先輩からの言葉があり、最後に昭和大学宣言を新5年生代表の本多真梨子さんを中心に読み上げました。学生部長による閉式の辞のあと、桜が満開の上條講堂前で記念撮影を行いました。

また、3、4年生の進級式は4月1日に、6年生の進級式は4月2日にそれぞれの講義室で実施されました。進級式では学部長の挨拶、履修要項の説明、学生生活の注意、学務部からの連絡などに加えて、学年主任・副主任の紹介や学年によっては指導担任紹介、共用試験の説明、総括講義・臨床研修の説明なども行われました。また今年度からはシラバスが電子化されたため、分厚いシラバスの配布はなくなりました。

新年度に学生の皆さんが意欲を持って過ごしていただけるよう、教職員一同でサポートしていきたいと考えています。



## D6就職実践研修が実施されました

歯学部就職支援委員会 佐藤 裕二

4月6日に就職活動実践研修「選ばれる秘訣」がANA ビジネスソリューション:塚崎洋子先生を講師にお招きして開催されました。知識や技能を教育することは当然ですが、立派な社会人を育てることも重要と考え、昨年度の6年生から開始しています。昨年度も非常に好評であり、高いマッチ率を記録しました。相互実習や講演であつという間の2時間で、学生たちは目を輝かせて受講しました。講演終了後も20分以上にわたり、学生が個別に質問し、丁寧にご回答頂きました。本学卒業生の評判がさらに高まってくれることを期待しています。



## 「戦略的研究基盤」合同シンポジウムが 開催されました 口腔生化学講座 宮本洋一

歯学部では、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、平成20年度から口腔癌包括「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究－発症メカニズ



ムの解明からQOLの向上を目指してー」(代表:立川哲彦名誉教授),平成22年度から「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点の形成ーアンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生ー」(代表:宮崎隆歯学研究科長),さらに本年度から「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」(代表:上條竜太郎教授)の3つのプロジェクトを、それぞれ5カ年計画で進めています。これらのプロジェクトの合同シンポジウムが去る3月23日(土),歯科病院で開催されました。

宮崎歯学研究科長による開会の挨拶の後,東京大学大学院医学系研究科免疫学講座教授の高柳広先生(写真左)による「骨免疫学の最前線」,本学名誉教授で日本学士院会員の須田立雄先生(写真右)による「インプラント学ーその核心にチャレンジする」の2題の特別講演が開催されました。その後,各プロジェクト研究分担者から今年度の研究成果がポスター形式で報告され,活発な討論が行われました。最後に,立川名誉教授の閉会の言葉でシンポジウムが閉じられました。

## ケルン国際デンタルショーを視察してきました 歯科理工学部門 堀田 康弘

3月14日から18日まで,2年に一度ドイツ・ケルンで開催される,国際デンタルショー(IDS)に参加してまいりました。この国際デンタルショーは世界最大の規模を誇り,東京ドーム3個分以上の広さのメッセ会場に,149の国々から125,000人の来場者を集め,56の国々から2,058社の出展がありました。これは2年前の開催時より,参加者で7,000人,出展社数では約100社増えていることとなり,歯科業界もま



だまだ伸びる余地があるのだと感じました。また,IDSでは世界各地から最新の歯科用機器,材料,技術などが集まってくるため,展示されているものを詳細に視察すると今後数年の歯科業界の動向を予測することができます。生憎,悪天候により出発の飛行機が飛ばずスケジュールが半減してしまいましたが,それでもCAD/CAMをはじめとする歯科業界のデジタル化が益々進んでいることが感じられ,歯科医師自身もそれを使いこなすだけのスキルが求められるようになっていくのだろうと感じました。

## 昭和大学入職式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

学校法人昭和大学の平成25年度入職式が,4月1日午前10時から上條講堂で開催されました。本年度採用された新入職員は,研修医(医師)76名,研修医(歯科医師)78名,事務員44名,看護師・助産師331名,



薬剤師レジデント12名,診療放射線技師15名,臨床検査技師1名,臨床工学技士5名,その他の医療技術系職員12名(歯科衛生士3名,言語聴覚士1名を含む)の合計574名でした(教育職員を除く)。最初に小口勝司理事長が挨拶し,新入職員を歓迎するとともに,すべての職員が社会に貢献する優れた医療人を目標に,自ら研鑽するとともに学生や後進の教育にも責任を持って欲しいと激励しました。引き続き片桐 敬学長が,至誠一貫の言葉の由来を紹介し,本学の建学の精神を忘れず職務に励むようにと挨拶されました。小口理事長から塩澤美紗さん(看護師)に辞令が交付され,塩澤さんが新入職員を代表して宣誓をしました。参列者全員で昭和大学宣言を唱和し,引き続き校歌を斉唱して10時半に閉会しました。入職式終了後には,人権啓発推進課の山口課長の人権啓発に関する講演がありました。

## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

6月 6日(木):D2防災訓練

6月 9日(日):学祖祭

6月15日(土):父兄会総会

6月22/23日(土,日):富士吉田祭祭・オープンキャンパス

## 編集後記

歯科薬理学講座 坂井 信裕

年度始めのお忙しい時期にも関わらず,ご寄稿下さいました諸先生方には,この場をお借りして厚く御礼申し上げます。